



園だより



令和7年 12月号
杉並区立堀ノ内子供園
園長 大塚 玲華

言葉による伝え合い

特別支援教育コーディネーター 日下部美紗

5歳児きりん組の子どもたちは今、12月にある堀ノ内劇場に向けて「自分たちで作った物語を劇にして表現する」というめあてを学級でもち、取り組みを進めています。劇のセリフも動きも、同じ役の仲間と、自分の思いや考えを伝え合いながら話し合っていて決めています。

5歳児きりん組の子どもたちは、自分で選んで遊ぶ遊びの中でも、一緒に遊んでいる友達に自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら遊ぶ姿が見られます。一方で、お互いの思いや考えが受け入れられなかったり、うまく伝わらず思いが食い違ったりしてケンカになることもあります。そして、自分の気持ちを言葉にすることができるときもあるし、時として思いや考えはたくさんあるけれど、ドキドキして言葉に十分できなかったり、どのように伝えたらいいかなと戸惑う姿もあったりします。

さて、5月の園だより巻頭言で「子供園では、子どもたち一人ひとりが、得意なことも苦手なことも、自分に自信をもって生活できるように、『誰にとっても分かりやすい環境』を工夫しています。」とお伝えし、その例として、子供園の視覚的な支援についてご紹介しました。

言葉による伝え合いも同じです。言葉で自分の思いや考えを伝えることに得意、苦手はありますが、どの子も自分の思いや考えを伝えることができるように、特別支援教育コーディネーター（今年度は日下部）を中心に各学年と連携を取り合い、環境や援助の工夫をその時々での発達段階に応じて行なっています。今回はその様子をお伝えします。

4月。学級でこいのぼりを作る季節になりました。5歳児担任である私は、学級として初めての「話し合い」の活動なので、どの子も「話し合いで自分の考えを伝えてよかった」と感じられることを大切に、子ども2人組で「話し合い」ができるようにしました。話し合う内容をこいのぼりの「色」と「作り方」に絞り、それぞれの選択肢もいくつか用意することで、どの子も自分の思いや考えをもち、相手に伝えやすいようにしました。また、相手がどのような思いや考えなのか、そしてお互いが話し合ったこいのぼりがどのような形になるのか、イメージを共有しやすいようにこいのぼりのミニチュア見本を用意しました。話し合いのポイントを絞り、選択肢を設けることで相手に伝えやすく、また話し合いに見える化することで、相手の思いや考えが分かりやすくなり、自分の思いが伝わった、相手の思いを知ることができた、そして時には折り合いをつけながら話し合う、ということをもどの子も経験することができました。

その後、「おもしろ遊園地」など、4人前後のグループで話し合っていて遊びを進める経験を積み重ねてきました。担任は、ここでも話す内容を整理して投げかけ、話し合われている内容や決まったことが、誰にとっても分かりやすいよう、絵や文字でかいて確認しました。また、静かに参加している子が、意見を出さない理由を読み取ったり聞いてみたりして、それに合わせて、思いを言葉にできるように援助してきました。また、最初の頃は担任に自分の思いや考えを言う子も多かったのですが、子ども同士の思いの橋渡しもしました。担任の援助を受けながら話し合う経験を積み重ねる中で少しずつ子どもたち同士でも思いや考えを伝え合うようになってきました。

遊びの中でも、引き続き一人ひとりに応じた環境や援助を工夫することで、友達と思いを伝え合い、受け入れる経験を積み重ねていきました。

12月の堀ノ内劇場に向けてのグループの話し合いでは、話し合う内容（課題）も自分たちで見つけ、部分的に担任の内容整理や視覚的環境のサポートを得ながら、どの子も自分たちで思いや考えを伝えたり受け入れ合ったりしながら、話し合う姿が見られています。

このような姿は、5歳児に突然見られるのではなく、3歳児、4歳児の時にも言葉には表せない気持ちを担任（周囲の大人）に代わりに言葉にしてもらったり、絵で表したりしてもらったりして、受け止めてもらった経験や、毎日の絵本の読み聞かせなどを通して、友達と心を通わせたり、豊かな言葉や表現を身に付ける経験が積み重なった結果です。思いを伝えることが得意な子も苦手な子も、自分の気持ちを受け止めてもらった、聞いてもらったという経験を様々な環境や援助を通して積み重ね、だから自分も相手の話を聞いてみよう、自分が知っている言葉で伝えてみよう、という育ちにつながったのだと考えます。

今後、どの子も自分なりの思いをのびのびと表し、育っていくことができるように、発達段階や、子ども一人ひとりの姿に合わせた環境や援助を工夫し、職員全員で連携して保育を行なっていきます。

・ 今月の指導 ・

うさぎ組

弁当散歩で自然物を集めたり、運動会で自分なりに体を動かしたりすることを楽しんできたうさぎ組。好きな遊びの中でも、どんぐりや落ち葉など身近な自然物を使って遊ぶことや、ジャングルジムや鬼遊びで体を動かして遊ぶことを楽しんでいます。

他の子と関わりたい思いも少しずつ出てきました。自分の興味のあることをする中で、同じものを持ったり、まねをしたり、遊びの場や保育者を介したりして他の子と関わる嬉しさを感じ始めています。まだ幼児同士のやりとりは少ないですが、保育者に受け止められる安心感をもちながら、同じ場にいる幼児の中で自分の思いを出せることを大切にしています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の思いを出しながら、同じ場にいる幼児や保育者と関わって遊ぶことを楽しむ。
- 身の回りのことを自分でやろうとする。
- 好きなものや自分のしたい遊びを見付けて繰り返し遊ぶ。

寒くなってきたので、食事や睡眠をしっかりと取り、手洗いうがいを丁寧にするように見守りながら体調管理に気をつけていただければと思います。

ばんだ組

11月は、遠足で水族館に行った共通の経験から、イルカショーごっこや海の生き物作りなど友達と共通のイメージをもって再現遊びを楽しみました。また、リレーや助け鬼など友達と一緒に体を動かして遊ぶことも楽しみました。助け鬼では、追いかける、逃げるに加え、鬼の動きを見ながら仲間を助けにいたり、仲間に助けを求めたりするなど、友達の動きに対応して動くことも楽しむようになっていきます。

友達と一緒に共通のイメージをもって遊ぶ中で、自分の思いを友達に伝えたり、自分が思っていたものや考えたものを作ってみようとしたりするなど、自分の思いを出していく姿も増えてきました。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分の思いや考えを言葉や動きで表したり、相手に伝えたりしながら、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。
- 遊びや生活の中で、学級の友達とみんなで活動する楽しさを味わう。
- 簡単なストーリーの中でなりきって動いたり、言葉を言ったりして表現することを楽しむ。

いろいろな絵本のお話をもとに、役になりきって表現することを繰り返し楽しんでいます。堀ノ内劇場では、自分のなりたい動物などの役になって、学級の中で自分なりに表現する楽しさを感じられるように支えていきます。

また、寒くなってきた風邪が流行り始める時期になってきました。食事、睡眠をしっかりと取り、体調管理に気を付けましょう。

きりん組

数人の子たちが楽しんでいた海賊の絵本作りの遊びから、友達と一緒に、一人一場面ずつ考えて話をつないでいく紙芝居作りの遊びにつながり、学級のみinnで作った紙芝居を劇にすることにしたきりん組。同じ役の友達と表現を考えたり、必要なものと考えて作ったりしています。言葉で思いを伝え合う中で、相手に伝わる言い方をすることや、自分の思いだけで進めるのではなく、友達の思いも聞いて、どうしていくか相談することが大切であると感じ始めています。

- 友達と共通の目的に向けて、自分の力を発揮したり友達のよさを感じたりしながら遊びや活動を進めていこうとする。
- 自分のめあてに向かって、繰り返し挑戦することを楽しむ。

堀ノ内劇場という共通の目的に向けて取り組む中で、学級の友達と、互いに支え合いながら、一人ひとりが自分のよさを発揮し、楽しんで進めていけるようにしていきます。一方で、緊張で不安になる姿もあると思います。子どもたちの姿を受け止め、応援してください。

